

平成28年度 清瀬市立清瀬第二中学校 学校評価計画表

学校教育目標		健康(よりたくましく 心身をきたえる) 愛情(より豊かな 心をつちかう) 学力(より深く 自ら学ぶ) 勤労(よりよくはたらき 責任をはたす)			
目指す学校像(ビジョン)					
【目指す学校像】		1. 確かな学力を身に付けることができる学校 2. 思いやりのある豊かな心が育まれ、安心して活動できる学校 3. 心身ともに健康で、たくましく生きる力が育まれる学校 4. 社会に進んで貢献できる生徒が育つ学校			
【目指す生徒像】		1. 自ら進んで取り組む生徒 2. 人間性豊かな生徒 3. 心身ともに健康な生徒 4. 自己実現を目指す生徒			
【目指す教師像】		1. 向上心をもち、研究と努力を惜しまない教師 2. 強い信念、勇気をもち自ら範となり伝えることができる教師 3. 誇りをもち、職責を果たす教師			
前年度までの学校経営上の成果と課題					
1. 職層に応じた役割を明確にし、校内体制を整備し、組織的計画的なOJTにより教職員の資質向上に繋げる。 2. 基本的な生活習慣の確立と並行し、学力向上を本校の第二ステージとする。そのために生徒が自ら考え行動できる自主自律的活動を育成する。					
	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)
確かな学力の向上	全教員が校内研修(年2回)・小中研究会(年1回)の計3回の授業研究を通して、授業改善や資質向上を図り、個に応じた指導と生徒の基礎基本的な学習内容の習得を目指す。	二中スタンダードに基づいた授業により、授業規律と分かりやすい授業の徹底を図る。 基礎基本的な学力の定着を図り、個々の能力を伸ばす。目標に向かって挑戦する精神を育成する。	二中スタンダードに沿った授業研究や特別支援教育の研修を計画的に行い、授業規律の確立と授業力を高める。 漢字検定、数学検定、英語検定などを年3回実施し、能力の伸長と学習意欲を向上させる。	4 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上	4 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				3 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが70%以上	3 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが70%以上
				2 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%以上	2 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが60%以上
				1 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%未満	1 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが60%未満
				4 年間検定8回以上実施 3 年間検定6回以上実施 2 年間検定5回以上実施 1 年間検定5回未満実施	4 生徒の受験延べ人数500人以上 3 生徒の受験延べ人数400人以上 2 生徒の受験延べ人数300人以上 1 生徒の受験延べ人数300人未満
豊かな心の育成	教育活動を全般を通して、道徳教育を推進する。さらに、心の教育の充実を図るため、体験活動と外部人材活用を中心とした教育活動を年間指導計画の中に位置づけ、豊かな人間性を育成する。	三年間を見通した系統的なキャリア教育の実践により、自己理解を深め、社会性、コミュニケーション能力、他者への思いやりの心を育成する。 生活指導部を中心にした校内体制を整え、健全育成上の問題の未然防止に努め、いじめや不登校生徒のない学校にする。関係諸機関との連携を図る。	1年生・2年生で職場体験(3日間)を実施する。また、年間指導計画や各学年のねらいに応じた外部人材を活用してのキャリア教育を実施する。 あいさつブラス一言運動の徹底、アンケート・SCによる面接や定期的に相談週間を設け、実態を適切に把握し、問題の未然防止に繋げる。	4 全学年でキャリア教育を年間10回以上実施	4 生徒の満足度の評価A・Bが80%以上
				3 全学年でキャリア教育を年間8回以上実施	3 生徒の満足度の評価A・Bが70%以上
				2 全学年でキャリア教育を年間6回以上実施	2 生徒の満足度の評価A・Bが60%以上
				1 全学年でキャリア教育を年間6回未満実施	1 生徒の満足度の評価A・Bが60%未満
				4 調査と面談を6回以上 3 調査と面談を5回 2 調査と面談を4回 1 調査と面談を3回	4 生徒の学校生活が楽しい評価A・B80%以上 3 生徒の学校生活が楽しい評価A・B70%以上 2 生徒の学校生活が楽しい評価A・B60%以上 1 生徒の学校生活が楽しい評価A・B50%以上
健やかな体の育成	全教育活動を通して、健やかな体の育成に向けた指導を徹底し、運動に対する関心意欲と体力向上を図る。また、各教科との連携によりオリンピック・パラリンピックの推進を図る。	体育の授業、部活動、地域の体育的行事に積極的に参加させ、技術向上を図る。また、アスリートとの交流を通し、運動に対する意欲関心を高める。 体育の授業の工夫や行事(運動会、マラソン大会)に向けて意識を高め、学校全体で生徒の体力向上を図る。	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。 個に応じたTTの授業、部活動などで持久走の自主練習を取り入れ、100%のマラソン大会参加率を目指す。	4 教職員の取り組み評価がA・Bが80%以上	4 部活動や地域クラブへの生徒の加入率80%以上
				3 教職員の取り組み評価がA・Bが70%以上	3 部活動や地域クラブへの生徒の加入率75%以上
				2 教職員の取り組み評価がA・Bが60%以上	2 部活動や地域クラブへの生徒の加入率70%以上
				1 教職員の取り組み評価がA・Bが60%未満	1 部活動や地域クラブへの生徒の加入率70%未満
				4 自主練習を20回以上実施 3 自主練習を15回以上実施 2 自主練習を10回以上実施 1 自主練習を10回未満実施	4 マラソン大会への生徒の参加率90%以上 3 マラソン大会への生徒の参加率85%以上 2 マラソン大会への生徒の参加率80%以上 1 マラソン大会への生徒の参加率80%未満
本校の特色①	校内研修や小中学校との連携を通して教職員の資質向上を図る。 外部人材の活用を年間指導計画に位置づけ、多種多様な授業、体験的な活動を実施する。	二中スタンダードを活用した小学校からの系統的な授業と学力調査等の結果分析により課題を明確にし、授業改善を図る。 外部人材を活用して、内部的・外部的動機付けにより、自己の個性・能力・適正の正しい把握と慎重につなげつつ共に教科・道徳・行事の充実を図る。	学力調査の結果に基づき、指導改善と生徒の主体的な学びにつながる授業研究を年2回以上実施する。 教科、道徳、行事のねらいに応じた外部人材を活用し、目標達成や生徒の変容に繋げる。また、国際理解教育を各学年で実施する。	4 教員全員が2回以上実施率が100%	4 教員の達成度の評価A
				3 教員全員が2回以上実施率が80%以上	3 教員の達成度の評価B
				2 教員全員が2回以上実施率が60%以上	2 教員の達成度の評価C
				1 教員全員が2回以上実施率が60%未満	1 教員の達成度の評価D
				4 全学年で、年間12回以上実施 3 全学年で、年間10回以上実施 2 全学年で、年間6回以上実施 1 全学年で、年間6回未満	4 生徒の理解度の評価A 3 生徒の理解度の評価B 2 生徒の理解度の評価C 1 生徒の理解度の評価D
本校の特色②	生徒会を中心とした活動を工夫し、生徒会活動とボランティア活動の活性化に繋げ、生徒の自主自律の活動を高める。 地域・日本・世界情勢に目を向けさせ、活動を通して貢献する意義を理解させ、実践力を高める。	生徒会を中心として、各専門委員会の活動の改善・工夫により生徒活動の活性化と自己の役割を自覚させる。 年間2回の街頭募金活動や地域の活動に積極的に参加させることにより、多方面に目を向けさせ、ボランティア精神を高める。	生徒会活動や各専門委員会の活動内容を明確にし、活性化に繋がる取組を実施する。	4 生徒主体の活動が年50以上回実施	4 生徒の参加人数500人以上
				3 生徒主体の活動が年30回以上実施	3 生徒の参加人数300人以上
				2 生徒主体の活動が年20回以上実施	2 生徒の参加人数200人以上
				1 生徒主体の活動が年10回以上実施	1 生徒の参加人数100人以上
				4 ボランティアについて理解・評価A・Bが70%以上 3 ボランティアについて理解・評価A・Bが60%以上 2 ボランティアについて理解・評価A・Bが50%以上 1 ボランティアについて理解・評価A・Bが50%未満	4 生徒の延べ参加人数500人以上 3 生徒の延べ参加人数400人以上 2 生徒の延べ参加人数300人以上 1 生徒の延べ参加人数200人以上